

陶芸家の高橋さん、大江さん、鈴木さん、伊藤さん、故加藤さん

作品5点を
永年保存

東濃信用金庫(多治見市)は、美濃陶芸作品永年保存事業で本年度買い上げた作品の発表会を、同市虎溪山町のとうしん学びの丘エールで開いた。故人を含め地元ゆかりの作家5人が手がけた茶器セットやしょうゆ差し、大鉢、皿計5点を披露した。6月29日まで、同所のとうしん美濃陶芸美術館に展示している。(小森直人)

永年保存作品は、高橋生華さん(44)＝多治見市末広町＝の「茶器セットむらさき」、大江憲一さん(49)＝土岐市下石町＝の「ショウユサシ」、鈴木健さん(53)＝多治見市市之倉町＝の「志野大鉢」。特別永年保存作

東濃信金が購入 美術館に展示

品として伊藤慶二さん(89)＝土岐市泉島田町＝の「皿 金銀彩」、日本工芸会正会員で多治見市で活動した加藤賢司さん(1933～2008年)の「赤絵角皿」が選ばれた。

高橋さんの作品は、植物の形にヒントを得た紫色の磁器のポットやカップ＆ソーサーなど。「毎年原型を作り直してきたが、最近形が落ち着いてきた」と話

前を自作を
高橋一憲、伊藤見山、とうしん
生華さん、大江健さん、藤慶二さん＝多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール
選定する(左から)高橋一憲、伊藤見山、とうしん
生華さん、大江健さん、藤慶二さん＝多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール

した。大江さんはしのぎの技法でさまざまな装飾をした、ペンギンに似たたずまいの陶器のしょうゆ差しが選定され「機能が必要。新しいものができればと日々精進している」と語った。鈴木さんの作品は、生地と点の模様の色を上半分と下半分で反転させたモダンな大鉢。「昔からの流れをいかに現代につなぐかをイメージしている」とい

う。伊藤さんは、円や三角、四角の模様を金銀で彩色した皿で、「意匠をテーマに、抽象的な要素を模様に取り入れた作品」と説明した。事業は地域文化の振興のため1987年から続けており、39回目。選定作品は計125点となった。発表会には事業推進委員会の委員が出席。会長の加藤康之東濃信金理事長は「美濃陶芸の発展に寄与する狙い。(購入を)脈々と続けたい」と述べた。

